

明石市

国際協力海外レポート

濱田 昌大（はまだ まさひろ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イフガオ州ラガウエ町
職種：コミュニティ開発
赴任期間：2015年7月～2017年7月（予定）



○イフガオ州についてー伝統的文化が色濃く残る山岳地帯ー

イフガオ州は、フィリピンの首都マニラのあるルソン島北部に位置する。マニラからイフガオ州への移動は、バスで約10時間を要する。イフガオ州の総人口は、約20万人。主な産業は、農業（稲作）、林業、狩猟であり、全就業者のうち80%以上が農業に従事している。意外なことに、独身男性と独身女性が多い。全人口のうち約50%が未婚者となっている。

注目すべき点は、イフガオには、伝統文化が色濃く残されているところである。フィリピンは、スペイン、アメリカ、日本による統治や植民地支配を経験しているが、イフガオは秘境の山岳地帯であり、外敵の侵入を防いだことと、イフガオ族などの現地住民が、戦闘力に長けた民族であったことから、植民地支配を免れた。したがって、イフガオは、フィリピン全土で見受けられるスペイン、アメリカ文化による影響が小さく、フィリピンの伝統文化が今日まで継承されている。

ラガウエ町は、イフガオ州の州都である。地方行政機関、学校、病院、教会、スーパーマーケットなど、生活に必要な施設が一通り揃っている。配属先のイフガオ州政府計画開発事務所もラガウエ町に位置する。



イフガオ族の伝統的衣装及び高床式倉庫



ラガウエ町の様子。特に休日は賑やか。

○イフガオ州の棚田について

イフガオ州は国内有数の稲作地帯である。古くから米どころとして栄えてきた。イフガオ州では、約二千年前から、原住民、イフガオ族によって山間部の斜面の開墾（棚田）が進められて、稲作のハンディとなる急こう配での作付けを実現している。特に、イフガオ州内のバナウエやキアンガンなどの棚田が美しい。歴史的価値も高く、イフガオ、コルディエラの棚田群は、現在、世界に2例しかない世界文化遺産及び世界農業遺産のダブル世界遺産に登録されている（もう一つは中国の棚田群）。イフガオの棚田を全て横に並べると、地球半周分の距離になり、棚田群としては世界最大規模である。

イフガオは、「天国への階段」（棚田への畏敬と尊称）、「世界第8番目の不思議」、「文化人類学の宝庫」と言われる秘境の山岳地であり、今日、世界中から多くの観光客が訪れている。



棚田群を背景にイフガオ族と記念撮影



○今回の活動内容について

今回の青年海外協力隊としての活動は、原住民、イフガオ族と協力して、棚田群の保存、活用を図ることを主としており、具体的には以下の3つの要請があった。

- ①議会、行政、住民へ「イフガオ小水力発電プロジェクト」のPR。
- ②棚田保存基金の運用改善及び管理（事業のモニタリング）。
- ③小型水力発電所の利害関係者である日系企業との折衝及び定期的な事業報告。可能な範囲での小型水力発電所の運営。

○棚田保存のための基金について

日系企業の社会貢献事業の一環として、イフガオの山岳地帯に小型水力発電所が設置された。この事業では、発電所から得られる売電収入を、棚田保存のための基金として全額を充当させて、運用する仕組みとなっている。（例えば、売電で年間1,000万円の収益が発生した場合、基金の運用に必要な諸経費を差し引いた900万円を全額、棚田の保存に活用できる。）基金は、イフガオ州内の11地区町村の各議会、各行政、各現地住民との会議を開催して、利害調整を行った上で分配する。これまでの事例では、基金の多くが、棚田群の配水システムの維持管理費として利用されている。

今年8月、2基目の小型水力発電所（発電所名称：Liquid）が竣工、稼働した。今回のLiquidが事業モデルとして成功するかどうか、今後、フィリピン以外の発展途上国で、小型水力発電所を事業展開する上での布石となる。



小型水力発電所 Liquid の外観

○フィリピンの終戦記念日についてー終戦70年を迎えてー

9月2日は祭日。Victory Day Celebrationである。日本では、一般的に8月15日を終戦記念日としているが、フィリピンでは、山下奉文陸軍大将率いる日本軍が降伏を申し出た9月2日を終戦記念日としている。第2次世界大戦では、ココルソン島北部のイフガオにて、日本軍とフィリピン軍（アメリカ軍）の最後の激戦が展開され、両国併せて100万人以上が戦死したとされている。

停戦調停は、キアンガン中央小学校で行われたことから、Victory Day Celebrationは、キアンガン群のメモリアル広場にて毎年開催されている。



メモリアルモニュメント前でのセレモニー



伝統的な踊りを披露するイフガオ族

セレモニーには、イフガオ州知事、州議会などの政治関係者、フィリピン軍やアメリカ退役軍人などの軍関係者、多くの一般人が参加した。今年 は終戦 70 年の節目の年であり、昨年度よりも参加者が多かった。朝から晩までイベントが目白押しであり、フィリピン人による踊りや歌の披露などが続いた。

キアンガン郡には、小型水力発電所 Ambangal があり、私の主要な活動拠点の 1 つである。イベントでは、フィリピン国旗、アメリカ国旗、日本国旗が掲げられて、今日の 3 カ国におけるパートナ

ーシップの重要性を物語っていた。日本では、歴史教育の欠如を嘆く声が聞かれる。山下大将の話を知る日本人は、今や少ないだろう。自身の活動に加えて、キアンガンの歴史的意味合いを伝えていくことも、青年海外協力隊としての大切な仕事であると改めて実感した。